

「秋の北極圏旅行記 (10)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



ノルショー郊外の古い学校の校舎です。現在はほぼ廃墟で、夏はツバメのねぐらになっています。



帰り道の道路脇で巨大なキノコ発見！！



「ヤマドリタケ」の仲間でした。傘の裏側が「ヒダ」

ではなく「管孔」が密集しているのが特徴です。



この型のバス停をよく見かけました。青い壁で、小さくてかわいいので解体・運搬して、北軽井沢に持って行きたいと思いました。



ちょっとした休憩でも、道端で「秋の恵み」さがしができます。従って、ただの運転手交代の休憩なのに、なかなか先に進めません。



多いのはブルーベリーの実と、赤いリンゴンベリーの実はです。すぐに袋一杯になります。すぐに食べない

時は、凍らせておくのが良いです。



翌日は、宿泊地から車で40分ほどの「ヨックモック」に行きました。途中、インランズバーナン（内陸鉄道）の踏切を渡ります。列車は6～8月の運行で、今の季節は定期列車は通りません。



ヤナギランはツキミソウ（マツヨイグサ）と同じ「アカバナ科」の野草です。綿毛の中に非常に小さな種子があり、風で飛びます。北軽井沢にもありますが、日本では数が少ない希少植物です。



途中「バイキヤウル」という美しい湖に寄りました。秋の北極圏の湖は、どこも美しいですが、このバイキヤウルは特に良い雰囲気でした。

ヨックモックは美しい街です。秋には初めて来ましたが、思った通りの美しさでした。ヨックモックというのは「曲がった川」という意味で、北海道の「石狩川（イ・シカリ・ペッ）」と似た意味です。



湖畔には、綿毛を伴った野草がたくさんありました。これは「ヤナギラン」です。スウェーデンでは「ララローズ」と呼ばれ、夏はこの花一択と思えるほど、どこにでも咲いています。



どの街も競うように美しい教会があります。私はスウェーデン北極圏の教会では、ヨックモック教会が一番美しいと思います。冬もすばらしいのですが、秋もまたちがった美しさでした。